

2025(令和7)年4月15日(火)、久しぶりに「上桜田いきいきサロン」に参加して見た。正直のところ
がっかりした。まさに老人ホームミニチュア版と化していた。一般参加者を丸で老人ホームの入居者扱い
にするが如くの進め方・内容であった、私は痴呆症病棟入居者扱いにされた気分になった。(私の受止め
であって、どこかの施設に現に入居している人のことではない。)

さて、山形市社会福祉協議会が取り組む事業の一つに、福祉協力員をスタッフとする「ふれあいいき
いきサロン」活動を推進している。平成23年3月作成の「よく出る社会福祉協議会への質問 回答集」の
10頁から図(表)－1に抜粋する。

Q1 私達の町内会には「老人クラブ」があり、定期的に活動しているが、そのような町内会でも「ふ
れあいいきいきサロン」は必要でしょうか・・・？

A) 老人クラブに入っている人も、**そうでない人も、地域に住む住民が誰でも気軽に参加できるのが**
「ふれあいいきいきサロン」です。身近な町内に仲間づくりや友達作りのできる場が、老司クラブ以外
にもあれば、自分に合った活動を選んで参加できるようになります。そして、老人クラブへも運営協力
を求め連携できると、**内容の広がりも期待**できます。ぜひサロン活動に取り組んでみましょう。

図(表)－1

4月15日(火)、最後に次のような提案型の意見を述べた。

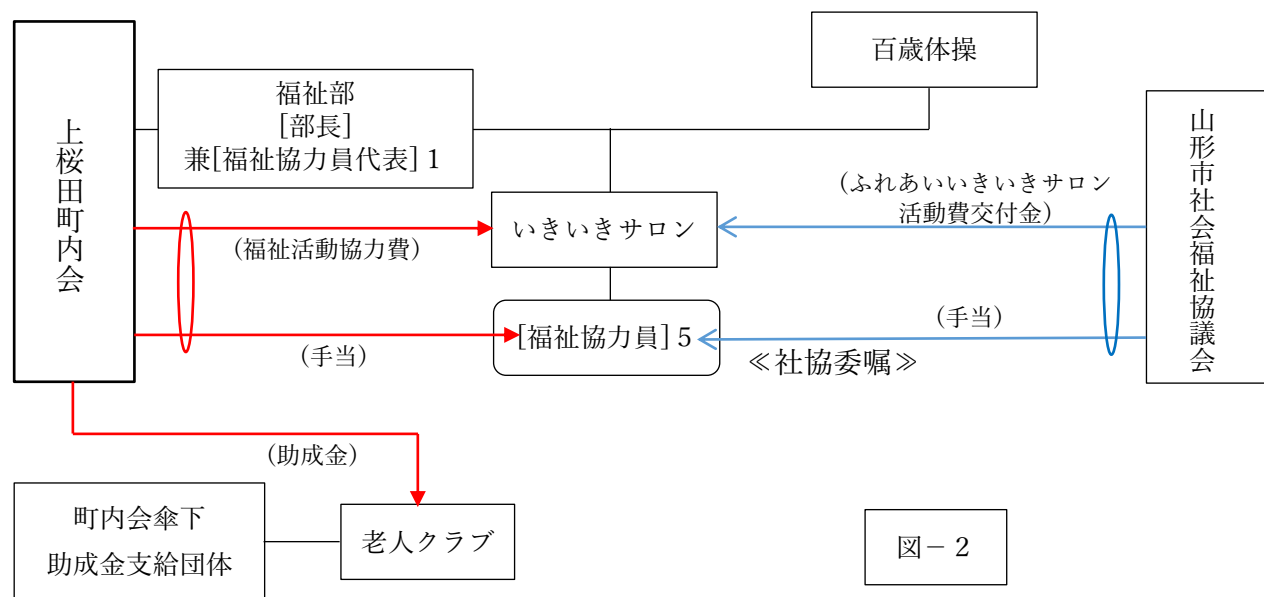
「山形市社協の設立趣意は老荘青を対象としたものだ、したがって、**大人の学習会という位置付けに
すべきだ**、講師を外部に求める必要はない、私達の中に様々な特技を持った人がいる、多くの人の人生経
験を聞く、互いに披露しあうという場にして欲しい。さて、このような場で、“難しい話をするな、政
治経済や宗教・スポーツの話をする”などと仕切る風の人表れるが、そういう言葉はご法度にすべき、
そういう態度は許すべきではない。そうすると、話が制限されて限定的になって面白くなる。何でも
話せる場にすべきである。」

実は、私は平成23(2011)年度～平成24(2012)年度の2年間、山形市社会福祉協議会から福祉協力
員の委嘱を受け、上桜田地区代表を引き受けて活動に従事して来た者である。現在は山形市内ほとんどの
町内会にあると思うが、当時は社協が立ち上げて初期の頃(黎明期)であった。研修会に何回か参加して
来たが、図(表)－1の趣旨は、広く存在するであろう老人クラブは名の通りに老人(高齢者)対象であろ
うが、福祉協力員主導による「ふれあいいきいきサロン」は**広く老荘青の集まりを意図(対象)したもの
である**とされた。

ちなみに、私が担った2年間の中で、1年間は前任者のやり方を踏襲した。それは、菊作りであった。
土壌作り、種まき、肥料のやり方、薬剤のやり方、芽の摘み方など植物の生長過程と、人間の有り様を重
ね、学びながらの中身の濃い学習サロンであった。2年目は私の独白色を出し、西川町と福島県白河市の
菊祭りに研修会と称して見学に行ってきた。屋内にあっては、私の歴史街道徒歩遊学紀行の話や、和讃を
習っていたのでその披露や、地元社寺の紹介等の歴史講座的なものもやった。

さて、上桜田町内会福祉事業(福祉部主管)に係る組織構図は図－2のとおりである。いきいきサロ
ンは町内会福祉事業の中核をなし、福祉部長は福祉協力員上桜田地区代表を兼務している、そのいきいきサ

ロンは山形市社協の委嘱を受けた福祉協力員がスタッフとなって運営している。「いきいきサロン」活動自体に社協からの助成金と、町内会からは活動費が支給されている。福祉協力員には山形市社協からと上桜田町内会から手当が支給されている。



毎月原則 15 日に開催される同サロンの予定が回覧されて来るが、私が離れた後の毎年ほぼ同じ行事、施設見学もあるが、講話もあるがみな外部招請者である。また、聞く処に依ると、一般参加者は毎回、10 名前後、満たないこともある、それもほとんどが女性、男性は数名だという、はたまた毎回顔ぶれが同じという、時には一般参加者よりスタッフ（最大 8 名）の方が多いと聞く。この現象は設立趣旨を踏まえて問題である。前記のとおり、福祉協力員主導の同サロンにはそれだけの優遇措置が施されているのだ、その活動が一部の老人ターゲットでいいのか？

老人・高齢者対象（焦点）というならば老人クラブがありそちらに誘導すればよい。**軽体操対象（焦点）**というならば百歳体操がありそちらに誘導すればよい。そちらでそれらの専門性を発揮、享受すればよいのだ。

最近 2024(R6)年 8 月に、うれしいことに接した。あの世に逝く寸前まで人間は飽くなき向上心がある証拠の一旦である。

- * 1；天童市の知人宅における山形新聞の文芸欄に時々登場する人の話。「ほぼ 2 年前のこと、グラウンドゴルフを長年やって来た、地区では何度も優勝した。がしかし、どこか満足感が得られなかった、何かないかと思った瞬間に浮かんだのが詩・短歌・俳句の世界であった、自己流だが・・・」私思うに、人間の本性は文武両道を求めるものだ、つまり、何かに、あるいは、どちらかに偏る・片寄ることに対する反動を以って、調和と向上心を求める^{さが}性の衝動であろう。
- * 2；ある方の父親が病に伏せ絶命の 1 日前、まもなく臨終の時、息子に対して“あそこにあるあの本を持って来てくれ！”と言うので持って行った。息子は内心、今あの世に逝く時になって本を読めるのか、理解できるのか何の役にも立たないだろうと思ったそうだが、最後の自分を奮い立たせるが如くに。一所懸命、本にかじりついていと話された。
- * 3；私の親族（介護度 4）のこと、ディサービスに行くと軽運動や音楽や幾何パズルのコーナーがあるが、俺はほとんど幾何パズルコーナーで過ごす、男のほとんどが集まると話された。
- * 4；私の叔母（亡き父の姉）が病に伏せているさ中、絶命の 1 週間前に、“あの本、読むの忘れて

いた”と、本3冊を持って来てくれと言われて持って行った。起きている間はその本を読み続けて、満足な顔で逝ったそうだ。

図-3の中で、「夢や希望を持ち、新しいことに挑戦し続けること」とジャネさんは言ったそうだが、言い換えれば、誰だって長生きしたい、長生きする秘訣は「夢や希望を持ち、新しいことに挑戦し続けること」という訳、すると、長生きしたいという渴望（本能）は「夢や希望を持ち、新しいことに挑戦し続けること」を欲求するということである、表裏一体・セットである。つまり、飽くなき知的向上心は死ぬまで尽きないということ、これは私が解説するまでもなく、万物の霊長たる人間の本能である。

古希を過ぎてから時間が矢のよう
に速く過ぎる。1週間も瞬く間に
過ぎる。「ちょっと、おかしく
ないか」などと、自問しているほ
どだ。この調子だと、私の残りの
人生も「あっ」という間に終わる
だろう、などと思ってしまう。そ
のせいだろうか。最近、「昔の知
人友人などに会いたいな」と思う
ことも増えてきた。

時間の長短の感じ方といえば、
ジャネの法則というのがある。「生
涯のある時期における時間の心理
的長さは年齢に反比例する。年少
者にはより長く、年長者には短く
感じられる」という、19世紀のフ
ランスの哲学者ポール・ジャネが
発案した法則である。

年を取るにつれて自分の人生に
おける「1年」の比率が小さくな
るため、体感として1年が短く、
時間が速く過ぎると感じるのだと
いう。例えば、5歳の人の1年の
長さは人生の5分の1、50歳の
人は50分の1に感じられる。両者で

気炎

ジャネの法則

は10倍違う。この体感時間を基準
として計算すると、100歳の人の
人生の折り返しは、20歳になる
そうだ。

もちろん、法則への批判はある。
「加齢と感じる長さの変化は反比
例よりもゆるやかである」と述べ
た日本の心理学者もいる。

ところで、この感覚を遅らせる
にはどうすればいいか。識者が言
うには「夢や目標を持ち、新しい
ことに挑戦し続けること」だそう
だ。毎日同じことを繰り返してい
ると、夢や幻のように時間が過ぎ
ていく。子供の頃のように、新し
いことを体験できればいいのだ
が、それは無理というものだ。

そこで、これまでの仕事に関す
る新知識や技術を学んだり、子や
孫を助けながら新しい息吹に触れ
たり、負担にならない程度に地域
の役割を担いボランティア活動に
参加したりするのはどうだろう。
時の過ぎゆく速度を少しは抑える
効果がありそうだが。（聴江 重）

2025年4月23日

山形新聞

図-3

私が思うに『人間は死ぬまで大いなる向上心を持つ生き物である。』 還暦を過ぎたからといって、人を馬鹿にしちゃいけない！ 障害を持った老人扱いの如くで対応するというのは、何様と思っているのか。上桜田いきいきサロンを担う福祉協力員としての、その関係者としての責務は、持つべき矜持は、真の慈愛の心は、人間の生命に宿る知的向上心に着火する役目を担うことである。老人ホームの似非介護ス

タッフに成り下がっては自尊心が傷つくだろう。施設入居者扱いで見下された一般参加者はそれ以上に深い傷が付くのだ、人権侵害の類^{たぐ}いではないのか？

推薦されて就いた福祉協力員は、謙虚に、人間のまっとうな心情、深層心理を勉強されて知的向上心を刺激する活動を推進して貰いたいものである。

いきいきサロンで、介護ホームのスタッフになったつもりで快感を覚えるのであれば、介護老人ホームに就職して、そちらでその能力を発揮してください！

**{上桜田いきいきサロン} は介護老人施設ではない！
介護老人施設にするな！
人間の持つ尊厳(向上心)を最大限尊重する内容にせよ！**

図(表)－4 規約における「福利」とは老人介護のことではない！^{N o n} 端的に言えば人間の心技体の意味、よって、その増進であるからは、会員の心技体の強化充実、錬磨増進ということになる。

上桜田町内会規約を再確認

(目的) 第2条 本会は、山形市上桜田の町内に居住する者の親睦と福利増進を図り、合わせて地域課題の解決を図ることにより、町内会の発展と明るく住みよい町内にすることを目的とする。

図(表)－4

以上を要約すると図(表)－5のとおりとなる。

今後の「上桜田いきいきサロン」の在り方に係る具体的提案

1. 運営の基本方針↪

- ✓ 山形市社会福祉協議会の老荘青を対象とする設立趣意を踏まえ、老人・高齢者のみをターゲットとするものではない。↪ 老人ホームミニチュア版にしない。
- ✓ 老荘青を対象とすることを踏まえ、人間の生命に宿る知的向上心を刺激し合う場とする。
↪ 大人の心技体を学び合う学習塾と位置付ける。

2. 場の持ち方

- ✓ 思想信条・主義主張の違いをのり越え、忌憚のない意見交換、率直な対話、人生経験を相互交換できる対等互啓(恵)の場とする。
- ✓ 政治、経済、宗教、スポーツ、町内会等の“そげだ、難しい話するな”などという仕切り屋的・制限的な振る舞いはご法度とする。

図(表)－5

魅力ある「上桜田いきいきサロン」の基盤

「上桜田いきいきサロン」	大人の心技体学習塾	老壮青・老若男女のみんなが気さくに集えるサロン	あれだめ・これだめの仕切り屋は出禁！
		話題は新旧、硬軟、文芸、何でもOKのちょっと混ぜサロン	
		社会的身分や立場を超えた対等互啓（恵）のサロン	

(end)